

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ 所在地：南巨摩郡鞆沢町771-2
 TEL：0556 22 8154 FAX：0556 22 8144
 HPでもご覧になれます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

< 峡南地域教育推進連絡協議会・峡南教育事務所 主催 >

平成21年度『峡南地区異校種連携セミナー』開催される

かけはし84号の紙面

- p1 異校種連携セミナー講演
- p2 同上 実践発表の要旨
- p3 地域の取り組み各種
- p4 シリーズ「地域の橋」インフォメーション



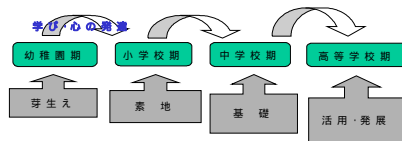
小・中・高連携の可能性について講演する山梨大学 鳥海教授



メモをとりながら講演に耳を傾ける参加者

峡南地域教育推進連絡協議会と峡南教育事務所は11月28日(土)身延町中富総合会館において、平成21年度峡南地区異校種連携セミナーを開催しました。峡南地域では、平成14年度から昨年度まで保幼小連携・小中連携セミナーとして開催してきました。今年度新たに「やまなしの教育振興プラン」が策定され教育の基本的な課題として、1 学校教育の充実、2 家庭・地域・学校の連携、3 生涯学習の推進、4 スポーツの振興、5 文化の振興が掲げられました。特に2つ目に掲げられた「家庭・地域・学校の連携」では幼児教育・家庭教育への支援と地域全体で取り組む教育の推進を図る必要性がうたわれています。少子化や都市化、核家族化が急速に進む中で、子育てやしつけ、子どもの不登校や進路等に不安や悩みを持つ親の増加、「小1プロブレム」「中1ギャップ」「高校での学び直し」など各校種において様々な課題を抱える児童・生徒が増加している状況が見られます。学校教育の一貫性や継続性が求められ、異校種間の連携や交流が進められています。今後も異校種間の連携や交流を進めることが、こうした課題の改善に繋がるものと捉え、中高の連携・交流の在り方と児童生徒の健全育成を考える機会として、『中高連携・地域連携』をテーマとして実施しました。峡南地域6町の小、中、高校の保護者、教職員、各町教育行政関係の方々など約80人が参加して、山梨大学教育人間科学部 教授 鳥海 順子 先生の「学びをつなぎ、心を育てる - 小・中・高連携の可能性 - 」と題しての講演と峡南地域の県立高等学校2校(身延高校と峡南高校)の実践発表(P2 に詳報)に耳を傾けました。鳥海先生は臨床心理学や特別支援教育が専門分野であることから、まず貧困化や家庭の変容が心の発達を阻害している現状 学習内容をつなぐ、学習意欲をつなぐ、学びの実感をつなぐ、そして異校種の教師をつなぐことの重要性 異校種連携をとることで児童・生徒の居場所が増え、自己肯定感(自己存在感・自己効力感・自己有用感)が育まれること 県内中学校区の連携実践例や笛吹市の連携事例また千葉県八街市の幼・小・中・高連携と長狭高等学校の小・中・高連携の事例紹介 小中高連携のためには、システムづくり、教師間交流・研修、共通の教育目標に基づく子ども像の設定、小中高12年間を見通した無理のない計画、そして実践の評価・改善、がポイントになるとの講演でした。

幼・小・中・高連携のイメージ図



(鳥海講師資料から)



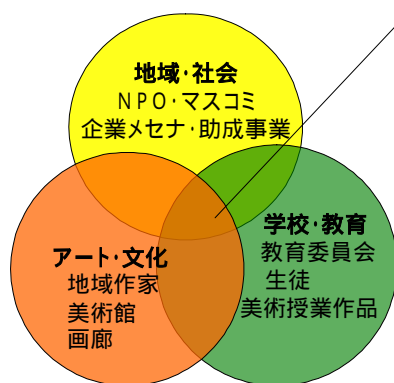
『峡南地区異校種連携セミナー』実践発表 要旨

身延高校《ライフミュージアム構想展》

発表者：身延高等学校 美術科 教諭 石田 泰道 先生

キャッチフレーズ 『豊かな人生を見つけるための博物館誕生！』

学校美術館構想



資料提供：身延高校

【特別展】
【生徒授業作品展】
【作家によるアーティストトーク】
【授業作品の地域展示】

学校美術館構想とは、
地域に根ざした学校を「美術館」という発想でとらえ、
文化交流の拠点として位置付けたもの。
最大のメリットは、
将来を担う生徒たちが一日の大半を過ごしている
教育の現場での実践であること。
今後、地域との様々な交流のあり方について、
その可能性が期待できる。
1994年、96年に東京の和泉中学校で行われた
学校美術館構想展は有名で、全国に波及しつつある。

身延高校（杉田和孝校長）では平成18年から昨年までの3カ年間で、「学校美術館構想 in みのぶ」という名称で美術のイベントとして行っていました。本年度は家庭科が参入し、さらに富士北稜高校との共同開催が実現しました。家庭科は、「衣・食・住」や保育・キャリアプランニングまで、幅の広い領域を包括する人生の「豊かさ」に関わる科目であるという認識から、美術との接点を模索し『豊かな人生を見つけるための博物館誕生！』というキャッチフレーズのもとに、10月12日(月)～10月18日(日)に実施しました。この構想展の目的は次の3点だそうです。

- * 豊かな生活を見直す機会とする
- * 学校を地域交流の拠点とする
- * 地域文化の活性化を図る

峡南高校出前授業・・・久那土中学校での《ロボット教室》

発表者：峡南高等学校 電子機械科 3年 天野幸司 君 石内雅人 君 北村隼斗 君

指導者：峡南高等学校 電子機械科 教諭 依田 淳 先生

峡南高校（二宮寛美校長）の取り組み

『久那土中学校出前授業「LEGO(レゴ)ロボット製作講座」は、平成17年度・18年度に「みんなの専門学校プロジェクト」に始まり、平成19年度「豊かな体験活動推進事業」、平成20年度・21年度「特色ある高校づくり推進事業」の一環として5年間継続してきたものです。また、峡南高校では建築インテリア科、土木科、情報ビジネス科の三学科でも、久那土小学校と連携して5年間継続して出前授業を展開しています。この出前授業のテーマは、「専門高校と小・中学校との授業の連携を推進し、ものづくりなどの体験学習をとおしてお互いの学習意欲を高め、よりよい勤労観を育てる」ことです。今年度も私達電子機械科三年生9名は、課題研究という授業で勉強している通称「LEGOロボット」の製作・操作の授業の基本的な部分を、地域の中学校である久那土中学校で一年生10名・三年生5名に行いました。私達が学んでいる「LEGOロボット」を通して、中学生に「ものづくり」の楽しさを少しでも分かってもらうこと、そしていつもは「学ぶ立場」にある私達が、中学生に「教える」ことにより、そこから色々と学び、またお互いの学習意欲を高めると共に、専門高校の学習内容を紹介することを念頭に置いて取り組みました。』

【実践発表資料から抜粋】



《出席者の感想の一部です》

とてもよい機会を与えていただき感謝致します。せっかくの機会ですので、より多くの方の参加があれば、地域の意識も高まるのではないかと思います。



ゆずの里まつり！！

ゆずから連想されること・・・ゆず 柚 柚子 柚味噌 柚湯 冬至 12月22(火)

今年も残り10日余り 大晦日 正月 なます ゆず 柚 柚子！ #?.....

11月15日(日)増穂町小室山妙法寺境内において、ゆずの里まつり実行委員会主催による第19回「ゆずの里まつり」が盛大に開催されました。

当日は ちびっこゲーム(増穂南小学校PTA) 合唱(増穂南小学校児童) 甲州よさこい凜舞ますほ 和太鼓演奏(小林和太鼓愛好会) 氷室神楽 ゆずの加工品表彰式 小室山万燈講行列 妙法寺お会式(稚児行列) 吉例・ゆず餅投げ 「ゆずのピラミッド数当て」当選者発表等が行われました。

なかでも、増穂南小学校(大森きよ子校長)児童の合唱【ゆずのお里】【まあるいいのち】【星の大地】は、集まった保護者・地域住民・観光客から拍手喝采でした。

また、会場には「ほうとう・おでん」「つきたてのゆず餅」「穂積自慢のゆず」等の販売コーナーも設けられ、たくさんの人だかりが出来ていました。

おもしろ企画として、「ゆず餅投げ」「ゆずピラミッド数当てクイズ」「地元女性が試作したゆず加工品の展示品評会」「ゆず狩り体験」等が行われ、参加者の目を引いていました。

この「ゆずの里まつり」には、県内外から3000名余りが来場し、郷土の文化とゆずの香を楽しんでいました。参加者は「子どもたちの歌声が綺麗だった」「ゆずを使った料理が美味しかった」などと話していました。

澄みきった青空、紅葉、富士山、関東有数の生産量をほこるゆず。妙法寺のお会式と合わせ、ゆずの実りと、手作りのあじと、手作りの芸を持ち寄った、地域住民の息吹が感じられる心暖まるお祭りでした。



「増穂南小学校
全校児童による合唱」



「穂積自慢のゆず
直売所の人だかり」



平成21年度 峡南地区 「子育て学習会」の御案内

主催：峡南地域教育推進連絡協議会・峡南教育事務所

日時：平成22年2月5日(金)19時15分(開会)～20時45分(受付19時00分～)

会場：増穂町民会館大ホール(増穂町教育委員会 TEL 0556-22-7212)

講演：演題 「幼児期の緊急対応」-不慮の事故・感染症・救急受診- (仮題)

講師 げんきキッズクリニック 宮本 直彦 先生

対象者：峡南地区北部(市川三郷町、増穂町、鯉沢町)保育所(園)・幼稚園の保護者、保育士、教職員
及び峡南地区各町主任児童委員、一般

申込方法：参加希望者は「参加申込書」にて、各保育所(園)・幼稚園へ申し込みください。

申込締め切りは1月22日(金)です。

各保育所(園)・幼稚園でまとめて峡南教育事務所へ1月25日(月)までに報告をお願いします。

問い合わせ先：峡南教育事務所 地域教育支援スタッフ(四條 勉、進藤正文、近藤修一)

TEL 0556-22-8154 FAX 0556-22-8144



シリーズ 富士川に架かる地域の橋

第5回 「 峡南橋 」



峡南の地にあり、峡南の名を冠した「峡南橋」は主要地方道市川三郷身延線で身延町西嶋と市川三郷町鴨狩津向を結んでいる「単純トラス橋」です。昭和57年発行の「六郷町誌」によると、峡南橋は橋長278.1m、橋巾8.25mで、この地点は昭和25年まで渡船のあったところで、上流にある月見橋（初代月見橋は昭和5年竣工：「かけはし82号」参照）の幅員が狭いことや、老朽化が進んでいるため重量制限等を行っていることなどから建設が希望されていたもので、昭和49年に起工して、以来5年の歳月と総工費9億7110万円を費やし

て、昭和54年に開通式を挙げ供用を開始したそうです。左岸の橋のもとに建設促進に関する「頌徳碑」（右上写真）があります。碑文には『峡南橋の建設については地域住民の永年に亘る願望で...(中略)...するものであります。昭和55年6月13日 峡南橋建設促進期成同盟』とあり、題字は旧中富町出身で当時の山梨県知事 望月幸明氏が記したものです。また右岸には西嶋和紙のマスコットキャラクター（左上写真）『美渡（みずき）ちゃん』が可愛らしく微笑んでいます。ところで峡南の「峡」の字について、北杜市在住の作家 宮崎 光 氏が『触発する市名』と題した文章で述べているので紹介します。《藤堂明保氏（前東京大学教授・文学博士）の『単語家族論』によると、「夾は、大の字形に立った人を、両側から小さな人がはさんでいるさまを示す。両わきからはさむ形をした事物は、すべてキョウ（中略）という音であらわされる。挟（はさむ）、狭（はさみ）、狭（せまい）・・・。「峡」=「峡」には「せまい」「はさまれた」などといったイメージがあり、「峡」はまさに「山に挟まれた谷」を表している。》のだそうです。 次回は『富士川』に架かる『富士川橋』です。



***** インフォメーション *****

△地域の行事や園・所、学校の取り組みを紹介します、ぜひ参考にしてください。
なお詳細は各学校などにお問い合わせください。

増穂商業高等学校課題研究発表会

12月22日（火）12:10～（増穂商業高校）

平成22年度公立高等学校入学者選抜日程

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1月13日（水）～15日（金） | 全日制前期募集出願期間 |
| 1月26日（火）～27日（水） | 全日制前期募集検査（予備日：28日（木）） |
| 2月 3日（水） | 全日制前期募集内定 |
| 2月17日（水）～19日（金） | 全日制後期募集出願期間 |
| 2月22日（月）～24日（水） | 志願変更期間 |
| 3月 4日（木） | 全日制後期募集検査 |
| 3月11日（木） | 入学許可予定者発表 |

☺情報提供とアンケートのお願い☺

情報紙「かけはし」の記事を募集しています。

特色ある取り組み等、ぜひ御紹介ください。

また、5月からの御愛読ありがとうございました。

今年度8回目の発行で通算84号です。年間10回の発行予定ですので今年度はあと2回発行します。来年度に向けて編集の参考といたしますので是非アンケートにお答えいただきFAXでの御返信をお願いいたします。お手数ですが、よろしくお願ひいたします。 m(_)_m

編集者のつぶやき・・・

今年度4月から、かけはしの編集を担当しましたが、はやいもので今年の最終号となりました。「かけはし」は通算84号となり「かけだし」が取り組んだ「かけあし」の9カ月でした。来年も充実した紙面づくりを心がけたいと思います。読者の皆様の温かい御支援をお願いいたします。

よい年をお迎えください。 m(_)_m